

平成30年度 西武学園文理中学校 自己評価表

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成	達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
重点目標	グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得②異文化理解の体得③日本の伝統文化の理解 以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。		B	おおむね達成（6割以上）
			C	変化の兆し（4割以上）
			D	不十分（4割未満）

年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況		
1	教育活動	学力の向上	授業時間の確保に努め、S時限、確認テスト、ゼミ、補講などを充実させ基礎学力の定着を図った。また、タブレット端末を利用した洋書多読に取り組み、各生徒のレベルに合わせて英語能力の強化を進めた。	A	オンライン英会話を授業時間内や放課後に充実させ、英語の4技能を向上させる。
			カリキュラムの再編を行い、グローバルコースをスタートさせるとともに、英語教育(4技能を意識)に関する新たな取り組みを進めて、授業者、生徒双方向授業へと転換を試みた。中学3年間、中高6年間の授業進度計画表(シラバス)にもとづいて全教科で授業を展開し、新しいカリキュラムの浸透を図った。英検やGTEC、漢検を受験させ、中学二、三年生の半数以上が上位級に合格した。	A	英検・GTEC・漢検等の外部検定試験や資格試験を積極的に受験させ、上位級を取得させる。
			学力推移調査を用い、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、学習指導に活かした。また外部模試を受験させ、難解な問題にも取り組ませることによって更なる学力向上とモチベーションの強化に努めた。	B	データ分析により弱点を克服し、基礎学力の定着を目指して、有効的な活用を図る。
			中学二学年から研究課題学習を意識して生徒各自で自由なテーマを選び、中学卒業時に提出する卒業論文の作成に取り組ませた。そこで体験的な活動や研究を中心に学習を展開するようにし、その過程や研究結果に関する成果物を様々な方法で記録させ、卒業論文として仕上げさせた。家庭学習の習慣を身に付けさせると共に放課後の時間を有効活用するために学習サポートセンターをスタートさせ、個別指導による計画的な学習展開を進めて基礎学力の定着に努めた。	A	主体性・多様性・協働性をもった人材育成を念頭に置いて、新たな教育の構築を進める。創造性を育み、自己肯定感を高める取り組みを日々の学習に導入する。
		人間形成	学習だけではなく、多彩な学校行事を通し、生徒たちに達成感や友人達との協調の大切さを体験させた。クラブ活動では限られた時間の中で、30年度も県大会に出場するクラブもあり、生徒の努力と成長が認められた。	A	中央委員会を中心に委員会活動の充実を促す。クラブ活動についても拡充を図る。
			「総合的な学習(CA)」の計画的な実施と内容の充実を図った。文化祭における展示発表の中で協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを確実に身に付けさせた。更にキャリア教育の一環として、狭山市民大学及び狭山市役所と連携を図り、狭山市という地域社会との関わりの中で市全体の活性化に向けて、生徒自身の手で様々な取り組みを行った。また、狭山市の商工祭に参加するなど、地域のイベント活動とも連携したことが生徒の達成感を助長し、精神的な成長におおいに寄与した。	A	引き続き狭山市民大学とのコラボを行うと共に新たに地域企業と連携し、購買戦略を考え、商工祭で実演することを継続していく。開校以来の伝統を守ると共に、より充実した内容になるよう努める。
		挨拶運動(オアシス運動)や頭髪服装指導を通し、端正な身なりと明るい挨拶のできる生徒たちが増えた。いじめについては生活アンケートを実施したり、担任との面談によって防止に努めた。また、薬物乱用防止、サイバー対策、性教育などの生徒・保護者向けの講演会を随時実施し、意識の向上を図るとともに、非行防止にも努めた。	B	生活指導では、問題が見られる乗車マナーなどの更なる向上を図る。いじめについては教職員、生徒共にその提議を再認識し、注意喚起を定期的に促す。	
2	学校としての組織的対応	進路指導部との連携	中学各学年の担当者と進路指導部の中学担当者が定期的に会議を持ち、高等学校卒業時に、自己の目標を実現可能にするために必要な事項を検討した。それにもとづいて、各種のキャリア教育やイベントに関する内容を再検討した。	B	社会の変化を的確にとらえ、生徒の将来に資するための必要事項を確認し、実際に指導に当たる。
		保護者との連携	保護者会、授業参観、保護者面談を定期的実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を必要に応じて更新し、連絡事項の徹底を図った。また、claassiを利用し、クラス毎のグループ配信を活用し、学校と家庭の連絡や危機管理について繋がりを密にした。	A	claassiをスタディサプリに変更し、従来と同様な連絡体制を確立して、学校と家庭の連絡や危機管理について繋がりを密にする。
		教育活動の対外的報告	HPの「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。また、各学年で定期的に「学年通信」を発行し、主に、校外の研修活動や、学校行事について学年の様子を保護者に伝えることができた。	A	外部の第三者や保護者に対して、学校の教育活動に関する報告の更なる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	年度当初より3S運動(整理・清掃・整頓)を教員研修を含めて推進した。委員会活動を中心に教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善につとめ、特に教室の整理・整頓・整列の可視化を図った。	A	日々の生活の中で3S運動が実践できるように、日常生活のあらゆる場面について再度見直しを進める。
3	教職員人材育成	授業アンケートの実施	生徒による授業アンケートと学校アンケートを実施した。教員一人ひとりの集計結果は各教員が自らの授業改善に役立て、明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させた。	B	次年度も各教員の力量向上と学校全体の教育力の向上に努める。
		課題設定表の作成と評価	全教員が「年度課題設定表」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結び付けている。	A	2019年度も、教員の効果的な自己点検自己評価を意識的にできるように工夫する。
		職員研修の実施	年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「教育相談」「環境美化」「防災」「コンプライアンス」「生徒募集」など内容も多岐に及んだ。	A	年間を通じた、より計画的な研修を実施し、資質向上に努める。特に防災に対しては、教職員の危機管理意識を高める。

平成30年度 西武学園文理高等学校 自己評価表

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成		A ほぼ達成（8割以上）
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。 ○ Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。 ○ 知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。 	達成度	B おおむね達成（6割以上） C 変化の兆し（4割以上） D 不十分（4割未満）

年度課題		年度評価		次年度への課題と改善策	
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況		達成度
1	教育活動	学力向上	AL型授業研修として研究授業を英語・国語・地歴公民・理科を中心に実施した。また、教科連携型授業も多く取り入れ、生徒達に深い理解を与えている。授業時間の確保を最優先に考え、学習活動を十分に行った。また、例年実施している夏季・冬季・春季ゼミ及び高1～高3生夏季合宿ゼミ等も行った。英語科では、模擬国連を開き、プレゼン力及び語学力向上に努めた。	B	21世紀型スキルとグローバルな視野を持った人材育成を念頭に新たな教育の構築を図る。
			例年行っているが、3年間の授業進度計画を各教科で検討しシラバスを作成し、平成30年4月に新入生に配布した。	A	新課程に伴い、授業内容の見直しを検討する。
			新教育情報システムを利用して、授業の予習並びに復習を生徒に徹底させた。全国模試を年に数回実施し、各生徒に現時点での実力を全国レベルで把握させ、また、各種分析を行い学習指導・進路指導に活用した。	B	来年度年大学入試改革に伴う「大学入試共通テスト」に向けての本格的な対応を図る。
			イノベーションセンター並びに本年度3月に開講した学習サポートセンターは定期考査前・考査中等多くの生徒が利用している。	A	学習サポートセンター及びイノベーションセンターの活用について更なる検討を図る。
		探究学習に取り組みはじめ、生徒ひとり一人がテーマ設定するにあたり試行錯誤を繰り返しながら、着実に進めている。また、理科科では課題研究の一環として先端科学講座の更なる充実を図り、様々な課題に取り組んだ。その結果3月に行われた「新しいマナビフェスタ」で、「ロボット大会」では優勝、「ポスター発表」では優秀賞と審査員特別賞を受賞した。また、本学園の文理小学校と理科科アメリカ修旅行(NASA・OSC等)先で現地アメリカの小学校で「小学校プログラミング教室」を理科科生徒が講座運営にあたった。	A	探究学習並びに理科科課題研究内容を再検討する。	
		人間形成	高校2年次に豪州、米国、マレーシア・シンガポールの三方面に研修旅行を行い、グローバルな感覚を育成した。また、多彩な学校行事を通し、生徒たちに達成感や友人との協調の大切さを体験させ、生徒会をはじめ各種委員会の活性化にもつなげた。クラブ活動では全国大会・関東大会に出場したクラブもあり、生徒の努力の成果が認められた。	A	生徒の安全を第一とした学校生活を充実させ、学校行事・クラブ活動の活性化を図る。
SDGsなど社会課題を取り上げた「総合的な学習の時間」の計画的な実施と内容の充実を図った。自己探求・進路選択・企業や地域との連携などをテーマとしたさまざまな体験的教育活動を行い、文理祭での発表の場を設けた。	A	2019年度より「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」への変更に伴い、生徒にとってより充実した教育活動の場とする。			
例年の新入生オリエンテーションで新しい友人関係の構築ならびに挨拶運動の推進のみならず、本校メディアポリシーを明示し、SNS等の利用についての研修を行った。また、保健体育の授業で「救命救急講習」を高2生全員を対象に実施した。	B	生徒指導・進路指導部を中心に多岐に亘る人間形成にかかわる新プログラムの開発を図る。			
2	学校としての組織的対応	進路指導部の改革	高校2年次に、生徒一人ひとりに志望校宣言させ、大学入試に向けての覚悟を定着させた。また、学習サポートセンターの活用を促し、個人の進路計画、学習計画を立てさせた。積極的に重点項目の共有を図るため、進路指導部会を月1回開催した。また、2020年度に実施される新しい大学入試制度に伴う入試制度の変更について、高1～3生の保護者対象の進路講演会を各学年ともに年に2回実施した。	B	教務との更なる連携強化により、2020年大学改革に向け組織的な対応を図り、進路指導部の体制強化および各教員の進路指導力を向上させる。
		保護者との連携	新しく導入した生徒に向けた一斉配信サービスを利用して保護者への連絡事項の徹底を図った。保護者会、授業参観、保護者面談を定期的を実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。	A	平成30年度に導入した教育情報システムをより活用し、教育活動の充実を図る。
		教育活動の対外的報告	平成29年度に改定したHPを更に充実させ、「What's New」で学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をよりタイムリーに報じることができた。また各学年で発行する「学年通信」も充実し、学年ごとの指導に役立てることが出来た。広報活動においては、教職員全員で地域毎に学校広報活動を行った。	A	広報活動の内容を見直し、文理高校を広く知っていただくよう学内説明会だけでなく学外説明会も積極的に実施し更なる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	体育館(大勇館・北斗館)フロア照明をLED化し、教育環境の改善を図った。美化委員会活動を中心に教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善につとめ、特に教室の整理・整頓・整列の可視化を図った。	A	令和元年度は本館Cゾーンの改修工事を実施し、衛生環境・学習環境の改善を図る。
3	教職員人材育成	授業アンケートの実施	保護者による学校評価とアンケート生徒による授業評価アンケートを実施した。保護者による学校評価は学校関係者評価として活用した。授業評価アンケート結果の分析研修を年2回(前期・後期)実施し、評価結果は各教員の授業改善に役立てるだけでなく、教科・学年で明らかになった課題を共有し教科指導に反映させた。	A	評価結果をもとに、21世紀型人材育成に向けてより効果的な授業展開の構築を図る。
		課題設定表の作成と評価	各教員が年度当初に作成した「課題設定表」に基づき、中間報告・年度末報告で自己点検・自己評価の改善を図り、自ら課題を明らかにしその実践に取り組んだ。年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結びつけた。	A	「課題設定表」を用いた各教員の自己点検・自己評価の分析に努め、教科・学年・分掌が向上できるものとする。
		職員研修会の実施	年間計画に基づき校内各分掌主任が中心となり、進路指導・生徒指導・教育相談・教育情報・環境整備・国際教育などが企画・実施した。平成30年度は新しい研修として「ターム留学」「e-ポートフォリオ」「英語外部検定試験」等を実施した。	B	新しい分野・内容の研修を計画し、更なる教育現場の資質の向上を図り、職務遂行に努める。

平成30年度 西武学園文理中学校 学校関係者評価

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成	凡例	A そう思う
重点目標	グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得②異文化理解の体得③日本の伝統文化の理解以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。		B どちらかといえばそう思う
			C どちらかといえばそう思わない
			D そう思わない

評価項目	学校関係者評価		次年度への課題と改善策	意見・要望など
総合的評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校の雰囲気・校風がよい (2) 学校への交通の便がよい (3) 校舎・施設がよい (4) 安全への配慮が行き届いている (5) 生活指導がしっかりしている (6) いじめなどの問題が少なくてよい (7) 学校行事が充実している (8) 保護者同士の関係がよい (9) 制服がよい (10) 納得できる学費である </div> <div style="width: 35%;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ A ■ B ■ C ■ D 	<ul style="list-style-type: none"> (1)より一層の向上を目指していきたい。 (2)もっと柔軟にニーズに対応していく。 (3)計画的に改装を進めていく。 (4)重点的にさらに強化していく。 (5)現在の評価を保持していく。 (6)問題発生ゼロを目指して努力する。 (7)現状を維持していく。 (8)このまま次年度に繋げていきたい。 (9)改訂に向けてさらに検討を進める。 (10)具体的に諸費用の削減を図る。 	<p>学校の持つ雰囲気や校風には非常に満足しており、学校行事や、生徒指導の充実に関してもおおいに満足している。いじめ問題の少なさや、学校安全に対する配慮についても十分に満足しており、保護者同士についても良好な関係が維持されている点が評価できる。校舎・施設についても適切に補修、改装されながら運用されていることが評価できる。制服や学費については意見の分かれるところはあるが、今後の検討に期待している。なお、通学の便についてはさらなる改善を求めたい。</p>
学習指導評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学習指導・教科学習が充実している (2) 基礎学力の定着がきちんと行っている (3) 成績上位者をさらに伸ばしてくれる (4) 成績下位者の面倒をよくみってくれる (5) 指導計画・教育課程が充実している (6) 体験学習が充実している (7) 英検・漢検の指導が充実している (8) 国際理解教育が充実している (9) 進学指導が充実している (10) 心の教育が充実している </div> <div style="width: 35%;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ A ■ B ■ C ■ D 	<ul style="list-style-type: none"> (1)このまま改革を進めていく。 (2)指導体制の充実を推進する。 (3)ゼミ等の充実を検討する。 (4)効率的な補習体制の確立を図る。 (5)新課程を目指して内容を再検討する。 (6)現状を維持していく。 (7)現在の取り組みを強化していく。 (8)具体的な内容について再検討する。 (9)キャリア教育等の見直しを検討する。 (10)行事や体験との関連性を配慮する。 	<p>教科学習の内容やその指導に関しては、明確な指導計画のもとに教育課程が整備されており、基礎学力の定着には問題を感じない。また、国際理解教育や体験学習の充実には満足しており、私学ならではの特色としておおいに評価できる。ただ、成績上位者に対する指導に比べると成績下位者のケアがやや不十分である点を感じる。また、英検や漢検などの外部検定に向けての指導や、キャリア教育が充実している点と比べると、心の教育に若干の物足りなさを覚える。</p>
教員評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> (1) 熱心な先生が多い (2) 明るい先生が多い (3) 公平な先生が多い (4) 困ったときに相談しやすい先生が多い (5) 頼りがいのある先生が多い (6) 質問や問いかけに、的確に対応してくれる先生が多い (7) きめ細かな指導をしてくれる先生が多い (8) 授業がわかりやすい先生が多い (9) 生活指導をしっかりやってくれる先生が多い (10) 学級運営が上手な先生が多い </div> <div style="width: 35%;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ A ■ B ■ C ■ D 	<ul style="list-style-type: none"> (1)教員の前向きな姿勢を推進する。 (2)学習環境の充実を努めていく。 (3)全ての生徒に誠実に向き合うようにする。 (4)生徒との距離感について配慮を深める。 (5)生徒の信頼感を向上させる努力をする。 (6)日々研鑽に努め指導力を高める。 (7)生徒の立場に立った指導を心がける。 (8)教員の研修の機会をより多く設定する。 (9)指導内容の共通理解の徹底を図る。 (10)職場内での情報交換の場を設ける。 	<p>非常に熱心な先生が多く、明るい雰囲気での学習環境にはおおいに満足している。日常的な学級運営や生活指導についても真摯に対応してくれる教員が多く、高く評価できる。また個別的な指導については親身に面倒を見ることが多く、非常に感謝している。生徒ひとりひとりからの相談等についても公平で信頼感があり、生徒との距離感も適切である。ただし、集団に対する授業運営においては細かいところで不十分な点を感じることもあり、より一層の研鑽に努めて欲しい。</p>

平成30年度 西武学園文理高等学校 学校関係者評価

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成	凡例	A そう思う
重点目標	*旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。*Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。*知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。*旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。*Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。*知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。		B どちらかといえばそう思う
			C どちらかといえばそう思わない
			D そう思わない

評価項目	学校関係者評価		次年度への課題と改善策	意見・要望など
総合的評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校の雰囲気・校風がよい (2) 学校への交通の便がよい (3) 校舎・施設がよい (4) 安全への配慮が行き届いている (5) 生活指導がしっかりしている (6) いじめなどの問題が少なくよい (7) 学校行事が充実している (8) 保護者同士の関係がよい (9) 制服がよい (10) 納得できる学費である </div> <div style="width: 35%;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> A B C D 	<ul style="list-style-type: none"> (1)現在の状況を大切にしていきたい。 (2)もっと柔軟にニーズに対応していく。 (3)老朽化している施設の改善に努める。 (4)重点的にさらに強化していく。 (5)より一層の改善点を模索していく。 (6)問題発生ゼロを目指して努力する。 (7)行事に対する満足度を高める。 (8)このまま次年度に繋げていきたい。 (9)改訂に向けてさらに検討を進める。 (10)具体的に諸費用の削減を図る。 	<p>学校そのものの雰囲気や校風については非常に満足しており、いじめ等の生活指導面や学校安全に加えて、保護者同士の交流や多様な学校行事展開についても、十分に満足している。また、制服や学費については意見の分かれるところはあるが、今後の検討に期待している。ただ、施設設備については老朽化しているものが見られ、改修等の必要を感じている。さらに、通学の便については様々な問題点があり、スクールバス運行の見直しなど改善できる点も多いものと思われる。</p>
学習指導評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学習指導・教科学習が充実している (2) 基礎学力の定着がきちんと行えている (3) 成績上位者をさらに伸ばしてくれる (4) 成績下位者の面倒をよくみってくれる (5) 指導計画・教育課程が充実している (6) 体験学習が充実している (7) 英検・漢検の指導が充実している (8) 国際理解教育が充実している (9) 進学指導が充実している (10) 心の教育が充実している </div> <div style="width: 35%;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> A B C D 	<ul style="list-style-type: none"> (1)さらなる充実に向けて努力する。 (2)指導体制の充実を推進する。 (3)ゼミ等の充実を検討する。 (4)効率的な補習体制の確立を図る。 (5)カリキュラムを再検討し、より進化させる。 (6)行事の見直しと体系化を進める。 (7)このまま改革を進めていく。 (8)具体的な内容について再検討する。 (9)生徒、保護者の満足度を向上させる。 (10)内容を精選し、効果的な指導を目指す。 	<p>様々な体験学習が非常に充実しており、国際理解教育についても生徒の心身の発達に大いに寄与している。また、日々の教科学習指導については内容の精選や計画的な指導体制に問題はなく、基礎学力面での定着についても満足のいく結果が得られている。成績上位者、下位者ともにケアは行き届いており、キャリア教育を始めとする進学指導についても満足のいく内容となっている。ただ、心の教育と、各種検定試験に対する指導については若干不十分な面が感じられる。</p>
教員評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> (1) 熱心な先生が多い (2) 明るい先生が多い (3) 公平な先生が多い (4) 困ったときに相談しやすい先生が多い (5) 頼りがいのある先生が多い (6) 質問や問いかけに、的確に対応してくれる先生が多い (7) きめ細かな指導をしてくれる先生が多い (8) 授業がわかりやすい先生が多い (9) 生活指導をしっかりやってくれる先生が多い (10) 学級運営が上手な先生が多い </div> <div style="width: 35%;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> A B C D 	<ul style="list-style-type: none"> (1)教員の前向きな姿勢を推進する。 (2)現状をさらに推し進めていく。 (3)全ての生徒に誠実に向き合うようにする。 (4)話しやすい環境作りに努力していく。 (5)生徒の信頼感を高める努力を継続する。 (6)日々研鑽に努め指導力を高める。 (7)生徒目線での指導を強化していく。 (8)授業の理解や定着の確認頻度を増やす。 (9)指導内容の統一性の徹底を図る。 (10)さらなる改善を目指して努力を継続する。 	<p>学級運営に秀でた先生が多く、明るい雰囲気や教育環境が展開されている。特に、個別的な指導については親身に面倒を見てくれることが多く、非常に感謝している。全体としての教員の態度や、生徒に接する姿勢については満足しており、生活指導や生徒ひとりひとりからの相談等についても、信頼感がある。ただし、集団に対しての教科指導や授業運営については今一歩不十分な点を感じることもあり、より細やかな配慮とわかりやすい授業を目指して一層の研鑽に努めて欲しい。</p>